

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価の調査項目です )

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と共に人が人として生きる喜びを心に感じ共に暮らせる時間と場所づくりを独自の理念とし、日々サービス向上を目指している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、リビング等誰からも目にとまる各所に掲示し常々カンファレンス等でも理念に触れる等して、共有し実践に向け取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の子供たちとの交流、祭り、地域の餅つき、地域ふれあい食事会買い物や散歩等積極的に交流している。ホーム主催の行事でも日々理念の浸透に努め、多くの地域や家族が参加している		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出入り口は常時開放されており、朝の外掃清掃やゴミすて時等に積極的にあいさつや声掛けに努めている。また、玄関周りにはプランター等を置き、フェンス越しにも、声掛け合える働きかけを行っている。所長、管理者が地域の役員として隣近所との交流をはかっていらいっしょに他、スタッフも清掃や散歩、スーパーへの買い物の際気軽に声かけ挨拶を心掛けている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域の祭り、敬老会、校区社協主催のふれあい食事会等、地域行事への参加を積極的に行っている。地域掃除等の自治活動についても参加でき得る限り入居者の方と一緒に参加したり地域の祭り等についても参加交流できる環境がある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月行われている地域区ごとのふれあい食事会にスタッフ・看護スタッフが参加し認知症についてのミニ講話や健康チェックを実施する等取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	5回目の外部評価であるが、初心に帰り評価基準等をふまえ職員全員が関わり、毎日のミーティングや毎月のカンファレンス等を通じて昨年の課題の改善及び今年サービス向上に取り組んで自己研鑽できるように各自が取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	県・市議会議員、民生委員、町内老人会、地域包括支援センター、家族、入居者、市役所長寿介護課職員等出席のもと、2ヶ月毎に開催している。地域との連携、関係づくりの提案、行事参加等の取り組みを行っている。地域からの要望、家族からの要望、ホームの活動状況等に取り組んでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当窓口に出向き意見交換を行ったり、アドバイスを受ける等積極的な取り組みを行っている。また、運営推進会議議事録等の提出等を活用し、行政との連携を図っている。また市の要請でNPO介護福祉サービス事業者協議会副理事長又、久留米市事業講座等に積極的に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、実際に成年後見人制度を利用している利用者がいる。その他、家族説明、アドバイスを行うと共に資料等を活用し、カンファレンス、フロアーホーム内研修等勉強会で理解を深めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新しい職員が勤務に従事する際は、必ず研修を行い又、毎月行われるカンファレンスを中心に機会がある毎に議題とし、勉強会を開催している。マニュアル・資料を用い学習の機会を設けている。また、常々から一人一人が注意し予防に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書を十分に説明し、理解を得るように努めている。解約時にもホームとして出来ることと出来ないことを十分説明し理解納得して頂いている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が手紙等で苦情を表せるように苦情窓口、定期的アンケートの実施、苦情相談、国保連のパンフレットの提示、近況報告時等に申し出て頂けるような働きかけを行っている。又、運営推進会議に利用者が参加し、意見などを言う機会を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人一人の生活状況や健康状態はケアマネが随時家族に報告し、月1回のお支払い時やその他の面会時に家族と面談を行い、連絡・説明を行うよう努めている。また、ホーム便りの郵送、電話等で伝達報告を行っている。ご家族来訪時には、スタッフが近況を報告し意見交換をおこなうよう努めている。また、金銭出納等を明示している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見については、所長をはじめ全職員が家族と積極的に関わり、その思いや意見を聞き、ケアノートへの記載、カンファレンス時の協議にも生かしている。また、玄関には、アンケートポストを設置し活用している。また、運営推進会議等家族の参加もあり家族来訪時には、スタッフが声掛けをし積極的にご意見、ご要望を聴くように努めている。(スタッフに名札をつける事は家族からの要望で実施した)		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員の意見を検討し取り入れられるように、機会ある毎に1人1人が素直な意見を言えるように働きかけている。また、運営者は、利用者の受け入れの際には、職員と相談の上決定している。又、職員雇入れ時も職員に相談した上で決定している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の身体状況、介助の度合いに応じ時間を変更するなど検討、実施している。主なローテーションに入らないスタッフ(看護師、ケアマネ)を配置している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑えるように、企業努力をしている。また、利用者と職員の馴染みの関係が出来るだけ保たれるように、ユニット間での異動は極力少なくし、ローテーションの中で核となるスタッフが常時居るように配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>子育て中の職員のための福岡県の「子育て応援宣言登録事業所」として積極的に登録し、更に定年退職年齢を60歳から65歳に引き上げる等配慮している。また、職員研修の希望があれば優先して受講できるように配慮している。職員募集に関しては、年齢制限なし男女不問、ただし有資格。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>行政機関が発行した人権・同和等のパンフレット等を教材として、人権教育、同和教育、人権啓発につとめ外部研修会に参加し、カンファレンス・フロアーホーム内研修なども実施している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修会への積極的な参加がなされている。また、毎月のカンファレンスを中心に機会がある毎に、参加者の報告や報告書の提示がある。職員が研修の為に書籍類・DVD・資格取得の為に教材DVD(ケアマネ・介護福祉士)等の貸し出し等実施している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国グループホーム協議会、福岡県グループホーム協議会に入会し種々の研修会や他ホーム主催の祭り、イベント等の参加など様々な機会毎に、相互交流を行っている。NPO久留米市介護福祉サーに事業者協議会理事会、NPO・GH部会員との相互交流情報交換などを実施している。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフのストレスケアの研修会には、ほとんどのスタッフが参加している。職員の親睦会、カラオケ、食事会等の開催。休憩室の確保をしている。また、職員からのストレスの聞き取り調査及び対応に努めている。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>出来ない事を言うよりも、良い所を見つけてほめながら育てるように心がけている。目的を持たせ、スタッフのためにホームでケアマネや介護福祉士受験対策のDVDや教材本、また介護関連の書籍を購入し貸し出しを行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム側からの訪問、若しくは来所して頂き、ご家族とご本人と面談をする機械をつくり、その際、出来るだけご本人の話を傾聴し、求めていること等を受けとめる努力をしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず、御家族の意向を良く聴き、困っていること、不安な気持ちに共感し、御家族の立場に立って受容する努力をしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談を受けた時から、本人及び家族が何を求めているかを十分に話し合い検討している。そして、それがGHではないと思われる時は、他の施設等を紹介している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族と・本人との面談の他、見学や実際に日中ホームで他の入居者の方たちと過ごして頂くなど、馴染める環境づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に手打ちうどん等の作り方の手ほどきを受けながら、皆で昼食として頂くなど、煮物や畑仕事、ならわし事には日常的に、かつ自発的に関わり自然と学び支え合う関係づくりがある。人生の先輩として尊敬を持って接している。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	祝い事を一緒に喜んだり催しごとを通して楽しんだり様々な場面での環境づくりに努め、喜怒哀楽を共に共感しあうよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族様には、なるべく訪問し面会して頂ける様に、利用料金等は、振込でなく直接持参して頂く様にし、本人の状態等を説明し、また家族の思いも理解するように努めている。また、ホームで行う誕生会等に家族にも来てもらい、共に喜べる時間作りに努めている。(誕生会、敬老会、夏祭り等)		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親族、友人等の来訪を積極的に受け入れている。また、記念に写真に撮って利用者や来訪者に贈っている。近況報告、ふきのとうだより等で関係継続の支援をしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	洗濯物たたみや家事において、自然に入居者同士の関わり合い支え合いの場がある。また、スタッフはそのような場面を大切にし、さりげなくフェローできるように努めている		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院退所を余儀なくされた利用者の方には、時間の許す限りスタッフや管理者等は面会に行っている。また、退所された家族にも年賀状・暑中見舞いの送付や電話による交流をおこなっている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で、様々な本人が発するサインから(言葉、表情、顔、動作)一人ひとりの思い暮らし方、聞き取りできる方には、日頃のコミュニケーションに交えて把握に努め、困難な方には生活歴等を元に検討を重ねるよう努めている。		これからも本人の思いや意向をくみ取れる様に常日頃よりコミュニケーションを蜜に図っていき支援したいと思う。
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや日々のコミュニケーションの中で得る情報、また入居時に家族にアセスメントシートの記載を依頼し、少しでも馴染みの暮らしを継続して頂けるように努めている		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録への記載、また近況報告書等を、全スタッフが目を通し現状を把握するよう努めている。又、スタッフ・看護師・かかりつけ医との相談や情報交換をしている。		個人記録の記入方法等で改善点があればその時点で取り入れたいと思っている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の関わり合いの中で入居者の思いの把握に努め、また、ご家族面会時には意向をお尋ねし、担当スタッフ、計画作成担当者で原案を作成し協議して個々の利用者本位のケアプランに努めている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて必ず見直しを行い、また、状態等に変化がおきた時点で随時対応している。毎月1回行われるカンファレンス時に、全スタッフによる協議や必要に応じてその都度話し合い等を行っている。また、見直し時は必ず本人家族・職員の意見を反映している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他にスタッフノートやケアノートがあり、気づきや変化、情報共有の実践、介護計画の見直し、カンファレンスでの検討などに活かして全職員が実践状況を確認している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携をしている病院の医師に毎週往診してもらっている。また、訪問歯科や送迎受診ができる眼科、皮膚科往診、訪問理美容の利用により、利用者や家族の負担を軽減するように努めている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営者は長年少年補導員や地域のボランティア団体に活動しており、また管理者も長年地域の女性防火クラブ会長や民生委員を務めているので警察、民生委員、消防、公民館等とのつながりは深く、色々な面で協力が得られている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の要望があれば、訪問リハビリや訪問歯科による口腔ケア等うけられるように支援している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	毎回の運営推進会議に地域包括センターにも出席をお願いし、ホームの入居者状況・空き状況から権利擁護など色々な問題の相談にのって貰っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとして複数のかかりつけ医があり、週1回及び2週に1回の往診がある。かかりつけ医からのナースの対応もある。また、かかりつけ医が24時間いつでも対応可能な支援体制をとっている。また、利用者の入居以前からのかかりつけ医の希望については、家族やナース、スタッフが通院の支援をしている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医がかかりつけであり、精神状態や周辺症状などを定期的に受診、または看護師が状態報告を行って、適切な診断治療が受けられるように努め支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームには、看護師が配置されていて、毎日の状態の報告や受診状況の結果等日常の健康管理について相談しながら支援している。また、かかりつけ医看護師とも密に連携を図っている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	担当医、スタッフ、家族の話し合いをもっている。また、看護サマリー等を活用し情報交換を行っている。また、病院でのカンファレンス参加やリハビリの見学などを行っている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	なり得る可能性について、ご家族、かかりつけ医と相談を行いながら、家族の希望を聞き、連絡を密に取り全職員も含め支援の共有化を図り希望に沿った支援体制に努めている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と看護師と家族の関係を密にし、その都度相談連絡を行う体制を作っている。また、職員全員が支援を共有できるようにしている。また急変時のマニュアルや連絡網などを作ってスタッフが安心して介護できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	できるだけ今までの馴染みの生活を継続できる様な支援をする為本人を含むご家族との情報交換を行い乍移り住むことのダメージを防ぐように努めている。特に本人が納得するまでじっくり話し合いの時間を作る様にしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎朝のミーティングでは、利用者の名前を頭文字のアルファベット等と呼び、利用者が聞いてもわからない様にす等、個人のプライバシーや誇りを尊重し、トイレ誘導等はさりげなく自然に対応する様にしている。他者と比較することなく言葉かけや対応を行っている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人にあった声かけや促しの工夫に努め、それぞれが自己決定できる場面を多くつくるようにしている。毎日の中でその日に着る洋服を選んでもらったりお茶の時間に好みの物を選択してもらおう等日々の気分や希望に応じた暮らしが出来るような場面づくりがある。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気が良くて、利用者の希望があればドライブに出かけたり、また、夜見たいTV番組があれば多少遅くなくても見せている。朝どうしても起きれない方は、遅い朝食をとってもらおう等、個人のペースに合わせるのももちろん、その日の状態や気持ちを考慮している。職員側の決まりや都合が優先ではなく一人ひとりの希望に添って機会を作る等の支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日の気分に応じた洋服の選択など、好みを取り入れたおしゃれが出来る様な場面づくりを行っている。また、外出できる方は、なじみの美容室や近隣の美容室を、困難な方は訪問理美容院を利用して髪形等個人好みを伺って実施している		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる時には、利用者の意見を取り入れ、職員も一緒に楽しく食事をしている。個々に応じた家事手伝い、皮むきや味付け等の調理片付け等を一緒に、共働出来る場面づくりに努めている。また、食事を楽しみながらさりげない介助を心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みの飲み物(コーヒー、紅茶等)、化粧等も含め10:00、15:00には希望を伺って1人1人に合わせ日常的に楽しめるように支援している。また飲酒については、家族と相談の上支援している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、QOLの高い生活を送ることを目的に排泄チェックリストの活用により個人の排泄パターンに従って誘導若しくは、介助支援を行っている。夜間だけポータブルを使っている利用者もいるが、出来る限りトイレ誘導を行っている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	勤務形態上決められた時間はあるが、色々な入浴剤を利用することによって、温泉気分を味わってもらう等その日のそれぞれの希望に応じて柔軟に対応するようにしている。毎日入浴者もいる。また、必要に応じて決められた時間でも対応できるよう支援している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣を大切にすることはもとのこと、日々の身体状況に応じて自由に休息や昼寝時間等本人の希望に添うよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園仕事や家事手伝い等、個々に応じた役割や、また、日々のレクリエーションには、カラオケやケアピクス、民謡などを唄ったり、踊ったりして利用者を楽しんで貰えるように工夫をしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	お金の管理のできない利用者もいるが、個々に応じて持たせている。また、外出や買い物の際に使える支援や対応を行っている。買い物をし、お金を、支払い領収書をもらうなどでお金の大切さや自信につながる支援をしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	各々の希望に応じ、近隣への買い物等積極的に対応している。日常的にドライブに出かけるなど支援している。ホームでの買い物の際にも希望者をドライブを兼ねた外出をしている。また、近くのスーパーへの買い物にも一緒に行ったりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族に墓参り時期等を相談したり、個別的にも行きたい、行ってみたい場所を伺い、ドライブ等に取り入れ支援するように努めている。また、本人がいつも出かけたたいと行っている場所を家族に伝え連れて行ってもらえるよう支援している。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的にいつでも電話を利用できるようにしている。家族からのまた、家族への支援も行っている。又、知り合いからの手紙にも返事を出せるよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔で挨拶し歓迎、案内するのはもちろんのこと、時間の取り決めをせずいつでも誰もが気軽に訪問できまた、茶湯の自由利用等で心地よく過ごして頂けるように努めている。また、居室に友人等が菓子、果物など持参され、ゆっくりと昔話など楽しんでもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して勉強会の実施や医師や看護師からアドバイスを受けている。また、カンファレンス等で話題に触れる等で再認識させる場をつくり徹底した周知をする事に努めている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は全階開放し、施錠は行っていない。また、鍵をかけない工夫をして職場の見守り日常生活からそれぞれの利用者の外出傾向を把握し対応している。安全のため玄関チャイムの設置もある。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、常に所在、様子確認の実施を行い夜間帯は、定期巡回の実施以外にも様子確認をする等常に安全に配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家事手伝いをして頂ける方には、物品を揃え自由に使えるよう対応している。危険のある物については、例えばハンドソープ、消毒液などは、必要時に出すようにし、使わない時は手の届かない棚の上などに保管し管理に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的にカンファレンスや学習の機会を通しての知識の周知徹底に取り組んでいる。普通救急講習を定期的に行っている。また、夜間火災を想定して通報・消火・避難訓練を行っている。消防署、自治会、近隣も交えた防火訓練を行っている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時(看取りの場合)と救急(突発的な場合)のマニュアルがあり勉強会等で習熟に努めるとともに、看護師による指導も行っている。普通救命講習に定期的に参加し、全員が実施できる様に努めている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣支援の働きかけを行うとともに、商店や警察、消防等に認知症の実態、症状等の説明を行い日常から地域住民の方々への協力要請し、協力を得られる様働きかけている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	かかりつけ医、家族に相談し、起こり得るリスクを考え書類を作成し、十分に説明して納得の上、署名捺印を頂いている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りの徹底とバイタルチェックの実施とともに観察をこまめに行い、看護師その他のスタッフとの連携により、異変の早期発見対応に努めている。また、かかりつけ医には24時間連絡ができ日曜、祭日にも往診してもらったりしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	手渡し、または与薬にて確認等を行う。症状の変化に応じた変更等も看護師からかかりつけ医に相談し、報告・記載がある		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日本体操を取り入れ、希望者には腹部マッサージ等個人別に対応している。また、食事は野菜やイモ類を多く取り入れ便秘の予防に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食口腔ケアの実施また、自力動作が困難な方にもスタッフが介助、スポンジ等の用具を利用し、清潔保持に努めている。また、訪問歯科医によるケアの実施。また、本人やスタッフへの口腔ケアの指導も受けている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューからおおよそのカロリーを計算し、食事量、水分摂取量をチェックすることにより、栄養バランスや水分量の把握に努めている。また、嚥下状態、体調に合わせてトロミ、寒天ゼリー等を利用し、食形態(量、大きさ、硬さ等)も個別に対応している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、またインフルエンザ等の予防接種(入所者とスタッフ)の実施を行っている。外部研修受講後には、ホーム内で勉強会を実施している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等は、随時消毒等で衛生管理を行い食材においても毎日買い物に行き新鮮な材料を仕入れその日のうちに使用するよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入り口は常時開放されており、玄関までの通路にはプランター等を置き、四季を日常的に楽しめて親しみやすい空間づくりに努めている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、常に生花を飾り利用者や来訪者に季節感を感じてもらえるよう努めている。また、階段横には、利用者の手作りの品や思い出深いこけし等を家族の希望を取り入れ飾っている。また、騒音を避け日光等はカーテンやブラインドを利用し、自由にリビングでも横になったりできる様ソファー等も設置している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置くことで居間とは少し隔離され、気の合った利用者同士、または一人で過ごせる空間となっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、本人様の使い慣れた生活用品(タンス・テーブル・家具・テレビ等)を持ち込まれる様に進めている。また、馴染みの暮らしが継続できる様に畳かフローリングかの選択が出来家族の写真を貼ったり本人の作品を飾ったりしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冬は加湿器を設置し、共用フロア、居室等は適宜換気を行い空気洗浄機も置いている。温度、湿度計を観察し、また、利用者の状態も考慮して随時対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置やトイレの手摺の増設、硬さの異なるソファの利用等、利用者が安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出入り口のドアをトイレのドアと間違えるので暖簾を利用して区別出来るようにしたり、居室の入口には手摺をつけて、楽に靴の脱ぎきが出来るようにしている。また、畳とフロアの段差には段差スロープを設置している		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には鑑賞できる鯉が泳いでおり、また建物周囲には季節の樹木が配置され散策ができる。さくらんぼ等の果実の木もあり、収穫を楽しむことができる。また、プランターにトマト、ピーマン、なすなどを栽培し、食卓に並べて楽しんでいる。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
<b>. サービスの成果に関する項目</b>			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
		↓	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない